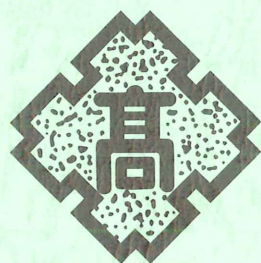
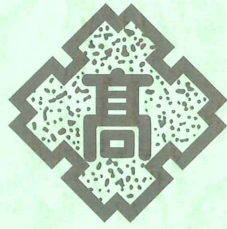


百 雄 会
60周年記念総会誌



平成26年7月20日

岐阜県立長良高等学校柔道部卒業生



長良高等学校校歌

昭和28年10月20日制定

土岐善麿 作詞
信時 潔 作曲

心をこめて
♩ = 約108

あ おげ ば きんか ざん み どりか が や き
た どれ ば な がら が わ み な も と と お し
あ あ し んりのみね た かくきび しー く
じ だいの な がれ な みもゆた け し
わ れら は し れり つ ねに ま な べり
せ かいの み ちの あ ら た な る を

1 仰げば金華山 みどりかがやき
たどれば長良川 みなもと遠し
あゝ 真理の峰 高くきびしく
時代の流れ 浪もゆたけし
われらは知れり 常に学べり
世界の道の 新たなるを

2 歴史は開けゆく 濃尾平野よ
希望はあふれたり 郷土の上に
あゝ 文化の花 清く薫りて
自由の風に 浮ぶ雲なし
われらは立てり 更に進まん
友情深し 長良高校

昭和28年8月 土岐善麿 作

百 雄 会

岐阜県立長良高等学校柔道部卒業生

【歴代恩師】

高橋 龍
浅野 勇
杉山 千住
三浦 昇
渥美 茂四郎
伊藤 誠剛
若山 徳
小島 洋
熊田 利行
加藤 忠比古
岩井 誠

【歴代会長】

初代 石原 正 (1 期)
二代 各務 守正 (4 期)
三代 森 磐根 (6 期)
四代 勝峰 孝文 (6 期)
五代 近藤 力 (8 期)
六代 羽賀 武夫 (19 期)

(敬称略)

「百雄会」の思い出

三 浦 昇

もう一度人間に生まれ変わってきたいですかと聞かれて一瞬戸惑った。生きてきた七十年余の日々が思い出される。切なかった。迷った。ささやかな楽しさも得た。生きるとは、つまりこんな日々の積み重ねなのだろうか…。

今、この文を書くにあたり過ぎし日々を思い返す時、百雄会との出会いが充実した日々の思い出として大きな比重を占めていると改めて思う。“感謝”感謝です。

百雄会六十周年、誠におめでとうございます!! 私と百雄会との出会いは、長良高校へ赴任した昭和四十二年でした。

今は亡き恩師の浅野勇先生から「長良高校柔道部には百雄会というOB会がある。部員も卒業したら百雄会の一員として母校の柔道の振興と発展に寄与してほしい」と訓辞され初めて認識した次第です。以来半世紀に亘り付き合わせてもらっています。初代会長後藤敏雄氏から四代目勝峯孝文氏、五代目近藤力氏、六代目羽賀武夫氏に至る歴代の幹事諸氏のおかげで今も発展を続けていることは誇りであり、そのご尽力に心から敬意を表します。毎年正月二日に開催される互礼会へ出席、諸兄が健勝に過ぎられ、それぞれの立場で活躍されているのを拝見するのが大きな楽しみでもあります。

さて、私が長良高校で勤務した際の思い出を少しばかり記します。

第一に、洗心館の完成です。昭和四十六年に完成。それまでは岐阜大学の古い道場をお借りしていましたが、PTA、百雄会の皆様様の御力添えにより完成したのです。完成祝いの一つとして、京都府警の講道館九段の栗原民雄先生揮毫の“敬”“愛”“心”の扁額を賜りました。人を敬い、信頼し尊敬される人となりなさい。愛は、他人を愛し、家族を愛する優しい心根を持って、真心で物事に当たれとの意味だと記憶して私はどれだけ生徒に教えたかと思うと汗顔の至りです。また、柔道の名門明治大学柔道部を招き一週間の合同合宿をしました。体格の良い、まるでゴリラのような大学生にも部員はひるむことなくチャレンジする姿を見て、心で嬉し涙を流しました。日本一の選手を間近で見て柔道とは何か?精神と技を体得してくれればという目的が達せられたと自画自賛したものです。お陰様で部員達の顔が変わり柔道に取り組む態度も変わり、地区で優勝、県大会で上位入賞の常連になり、東海大会に出場出来るまでに成長してくれました。中には個人で、全国、国体に出場する選手もいました。おそらく部員の気持ちは練習の激しさに耐え、強くなりたいと心から沸き上がる闘争本能からきていたと思うのだが違うであろうか。

私は確信する。多感な年頃は、体育系でも文化系でも物事に打ち込むことは、その後の人生の糧に必ずなっていると!特に柔道の神髄である「精力善用、自他共栄」の精神は自己認識だけでなく、世のためになっていると…。拙い文章を書くにあたり改めて百雄会の皆様に出会えた事を思い出し感謝致しております。長良高校と百雄会のさらなる彌栄を祈念し百雄会六十周年記念の祝とさせていただきます。

もう一度人間に生まれ来てきたいと思いませんか、今一度尋ねられたら、はっきりこう言おう。何度でも生まれ変わって、青少年とかかわり合い、汗で輝く顔が見たいと。

ありがとうございました。

百々ヶ峰の一日

伊藤 誠 剛

織田信長が岐阜城を築き天下統一の本拠地とした金華山は、五月頃になると「ツブラジイ」が満開となり、まさに黄金の山となる。その金華山の後ろにはどっしりと横たわる百々ヶ峰があり、この二つの山と百々ヶ峰のふもとに雄総観音がある。その間に長良高校は位置している。

これらの場所は格好のトレーニング場でした。金華山へは学校をスタートし「百曲がり」を一気に駆け上がり、岐阜城を経て「めい想の小道」を長良高校の校舎を眼下に見ながら下る絶好の展望付きトレーニングコースでした。雄総観音は、長い階段に恵まれていて大腿筋を太くするにはもってこいのコースでした。そして学校の裏手にある百々ヶ峰へは岐山高校の横を抜けて西側から登り始めますが、この山は名前の通りどこが頂上か分からず、一旦頂上らしきところに来ると下りがあり、また少し行くと上がっているという地形をしています。

学校の道場が使えない春先のある日、生徒三～四人ほどを連れてこの山頂の上がり下りを繰り返しておりました。暫くすると下り道になり、登山道の「三田洞」という案内が目に入りましたが、この道を行くと百々ヶ峰の裏手に出てしまい学校に戻るのには時間が足りない。しかし、このまま元来た道を引き返すにはもったいないと思い、現在地からこのまま南方向に下れば雄総あたりに出ると判断し下り始めました。もちろん道はありませんが、最初は比較的背の低い藪でしたので楽に進めました。足下ばかりを注視していて気づいた時にはまわりの樹木が高くて見通しが利かないほどになり、見回すと左手の方に視界が開けている場所があったのでそちらへ足を進めました。するとそこは、三十メートルは有にある岩盤の断崖絶壁でした。市街地が近くなのにこんな場所があることにビックリしていたら、太陽がかなり西に傾いてきているのに気づき、急に心細くなってきました。すると天の助け、木の陰からTVアンテナが見えてきました。「岩舟荘」のアンテナでした。「しめた」と思って藪をかき分けやっとの思いでアンテナまで辿り着き、アンテナ線伝いに「岩舟荘」に着いてホッとしたのも東の間まだ次の関門がありました。なんとそこは店の裏庭で家の周りは池でガードされてどこからも出る道がなくて、家の中を通過するしか方法がありません。仕方なく恥を忍んでお店の方をお願いして家の中をとおしてもらい事なきを得ました。学校の近くでこんな冒険ができるとは思ってもいませんでした。お陰で藪の中をもがいたのと気疲れで足も重くなり、そこから学校までの帰り道のいかにも遠く感じたことを思い出します。

百雄会はこんな自然の力に支えられて育ってきたのではないのでしょうか。優しくも厳しい自然があることに感謝した一日でした。

祝 辞

若 山 徳 明

羽賀会長、安藤副会長をはじめ、百雄会の会員の皆様、60周年おめでとうございます。この度は記念すべき総会誌に当時の思い出を執筆する機会を与えて戴き光栄に存じます。

私が赴任したのが今から22年前の1992年、伊藤誠剛先生の下で副顧問になりました。伊藤先生ご転出後は大熊政彦先生に来て戴き、以前の渥美先生や三浦先生、浅野先生など体育科教員の柔道専門家が主顧問を歴任されるのが長良高校柔道部の伝統でした。ところが大熊先生ご転出後に暫く専門家が不在になる時期があり、それまで副顧問で素人同然だった私が主顧問に就くことになったのです。正直焦りました。自分は副顧問の立場で柔道を勉強させてもらえる環境にずっと甘えていたからです。専門の指導者に恵まれなかった部員たちや、百雄会の諸先輩方に申し訳ない気持ちで一杯になりました。そんな中でも私なりに実行したことは、部員たちの不安が少しでも和らぐように、専門家のいる他校と合同練習をしたり、私自身が柔道に対して真摯に努力している姿を部員に見せることでした。副顧問就任当時はまだ29歳で三段しか持っていませんでしたが、部員と一緒に汗を流して練習に励み、昇段審査に何度も何度も挑戦して、平成11年に異動する頃には、指導者の端くれとして世間から認めて戴ける五段になりました。数学教員で素人柔道同然であった私にこのような成長の機会を与えて戴いたのは、ひとえに百雄会の皆様、とりわけ三浦先生・渥美先生時代の教え子の先輩方の励ましと、44期～52期の部員たちが一緒に練習してくれたお陰だと深く感謝しています。昇段の点取り試合で鎖骨を骨折したときにすぐに治療して下さったD先輩。この世で家族を含めた出逢う人すべてに一期一会の精神で接する事の大切さを教えて下さったH先輩。体育科でない主顧問という後ろめたさのある私の不安を払拭して下さったA先輩やU先輩、その他大勢の百雄会の皆様のお陰で、専門家不在の数年間を繋ぐ大役が私にも務まったのだと感謝しています。私の転出後は、小島洋先生、加藤先生、熊田先生と再び体育科教員柔道専門家に主顧問を無事引き継ぐことができ、百雄会の伝統に大きな穴を空けずに済みました。51歳になった今、長良高校で過ごした7年間で、私の人生の貴重な心のエネルギーになっていると確信しています。今後も百雄会の益々のご発展と、会員の皆様すべてのご健勝をお祈りしています。

百雄会60周年に寄せて

岐阜県立海津明誠高等学校長
熊田利行（第24期生）

百雄会60周年、誠におめでとうございます。今は亡き浅野勇先生・渥美茂四郎先生・小島洋先生をはじめ多くの偉大な先生方に引き継がれ、60年という長い年月成長し続けてきました。また、諸先輩や事務局等関係者一同が力をあわせ、横のつながりだけにとどまらず、縦のつながりや斜めのつながりなど多くのつながりができたことを大変喜ばしく思います。

私は昭和45年に高校に入学しました。三浦昇先生の時代で、当時は校内に柔道場がなく、隣にあった岐阜大学の柔道場で稽古していました。高校の稽古が終わり、岐阜大学の学生の稽古があると何人か残され、稽古が続きました。また、岐阜大学の柔道場が使用できない時は、体育館のステージでの練習やグラウンド・校舎内のランニング・トレーニングを行っていました。2年生になり、校内に柔道場ができました。多くの先輩に指導に来ていただいたり、いろいろな支援をいただきました。そして、夏休みに明治大学が本校で合宿を行いました。当時の明治大学あるいはその出身者は、全日本選手権覇者の篠巻さんをはじめ錚々たるメンバーがそろっており、世界レベルの柔道を目の当たりにし体験しました。

そして、教員となり母校柔道部の顧問として赴任することとなりました。部活動は、自らを鍛えることや苦勞することから逃げず、未知の世界や自身の限界に挑戦し、「自分や仲間を大切にすること」「何事にも屈しない強靱な心と体」を育ててくれます。そして、部活動を通して築いた友情や仲間は「一生の宝物」にもなります。正に長良高校柔道部・百雄会はそのものではないでしょうか。私にとって生涯に亘って母校柔道部のことを愛する同窓生に育ってくれることを願い、母校で教鞭をとれたことも宝となりました。

最後になりましたが、先輩諸氏、関係者の皆様の一層のご指導とご支援のもと、今後も母校柔道部の生徒が自信と誇りを持ち、歴史と伝統を引き継ぎ、成長し続けることを期待しお祝いの言葉とします。

六十周年によせて

加藤 忠比古

まずもって、「百雄会」創設六十周年、誠におめでとうございます。

長良高校柔道部と言えば、「百雄会」と県下に数少ないまとまりのあるOB会組織であることが思い起こされます。在職中は後輩となる柔道部部員に物心共にご支援を頂き、指導者として本当に心強い存在でした。

教員生活を振り返れば、まず採用試験の時の主任面接官が「百雄会」創設者の浅野勇先生でした。質問の途中に柔道修行者の精神が話題となり、「武道と禅」についてなど、今でもその内容が鮮明に思い出されます。

運良く採用となり、教員生活三年目には、非常勤講師として長良高校にお世話になり、柔道家、渥美茂四朗先生から柔道指導法を学ぶことが出来たこと、このことが、私の柔道指導者としての大きな支えとなってきました。

定年退職前の五年間を再び、長良高校にお世話になり、卒業生でもあった熊田利行先生と一緒に、柔道部の諸君と汗を流したことが懐かしく思い出されます。

長良高校柔道部部員の諸君、そして「百雄会」の皆様との出会いが、私の柔道指導者の一頁を豊かなものにして戴けたことに感謝を申し上げるとともに、これから会員となられる方々が、講道館柔道修行心得、「精力善用」、「自他共栄」の教えを胸に活躍されることを願い、六十周年によせてとさせて戴きます。

祝 辞 ～感謝と決意～

長良高等学校 柔道部顧問 岩 井 誠

この度、長良高等学校柔道部百雄会が創設60周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

百雄会は昭和29年4月に産声を上げ、60年の永きに亘りその歴史と伝統は脈々と受け継がれて来ました。多くの先輩諸氏、そして歴代顧問の先生方が築き上げてきた長良高校柔道部の熱き魂を感じずにはおれません。私は、本校赴任と同時に柔道部顧問を拝命し、今年で6度目の春を迎えます。武道場の壁に掲げられる歴代の先輩諸氏の名札を目の当たりにする度、本校の卒業生でなくとも、自分自身が百雄会の一員であるかの如く誇りと責任と自覚が生まれ、指導者として身の引き締まる思いで日々を過ごしています。

百雄会からは、柔道部在校生が柔道を通じて人間形成を育んでいけるよう、毎年、激励金など様々な支援をいただいております。この激励金は、遠征・合宿の補助や栄養費などとして有効活用させていただいており、深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

また、毎年1月2日の初稽古には先輩諸氏が道場に集い、現役柔道部員達を激励し、稽古をつけてくださったり、汁粉を振る舞ってくださったりし、感謝の念は尽きません。

現在の柔道部は、経験者の入部も少なく部員数は減少傾向にあり、実績も思うように上げられず、試合の度に悔しい思いをしています。このところの戦績は県高校総体では、団体戦ベスト8、個人戦3位入賞が最高で、なかなか上位の大会に出場できないのが現状です。幸い、部員達は柔道に対し真面目な生徒が多く、小さな努力の積み重ねがいつか花開くことを夢見て、毎日コツコツと地道な稽古に取り組んでくれています。彼等が、柔道を通し心身ともにさらに大きく成長してくれることが、指導者としての私の願いです。私自身も、伝統ある長良高校柔道部の名に恥じぬ指導者を目指すべく、更なる決意を心に誓う次第です。

最後に、今後も在学生現役柔道部に対し変わらずのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、百雄会ならびに先輩諸氏のますますのご発展を祈念いたしましてご祝辞といたします。

「百雄会」のルーツ

8期：近藤 力

はじめに

60年の歴史と伝統を誇る「百雄会」（以下「本会」と表現）のルーツを辿るには母校の生い立ちからが要件となり、浅学非才な小生にとっては至難な業であります。組織の草創期から携わってこられた先輩の知識を拝受するとともに「高校創立30周年記念誌」「県柔道協会ホームページ」等を参考にしながら記述することとします。

○母校の生い立ち

幾多の教育制度改革のうち特筆されるのは「小学区制」（長良地区周辺地に居住し、岐高・北高・岐商・加納高等に在学していた生徒が長良高に転学する制度。）の実施であります。当該実施にともない、それぞれの出身校の伝統とカラーをもつ寄合所帯である彼らをどう導くべきか、初代の河出修一校長が全教職員・生徒を集めた朝礼で「開拓者の精神で事にあたれ」と、訓話され、次代の伊藤喜一校長が、今学びつつある生徒が開拓者となり先輩となる、これから伝統を創造すること、体育・スポーツを通じて人間形成に努力せよとの意をこめ「開拓者の気魄で勉学とスポーツに当たれ 礼儀正しくあれ」を教育目標の第1項目に挙げられ、これが校訓となりました。

1、教育制度改革による変遷（概要）

年 度	沿 革 の 概 要
昭和23年	6・3・3制の実施に伴い、岐阜市立岐阜商業学校が岐阜市立商業高等学校と、岐阜市立女子商業学校が岐阜市立女子商業高等学校と、改称された。 23年8月18日に学校再編により両校は統合され、岐阜市立商業高等学校となる。
昭和24年	岐阜県公立高等学校、学区制が実施され、岐阜市立商業高等学校の地に普通課程と商業課程をもつ総合高等学校として岐阜市立長良高等学校が設立される。※学区 欄外参照
昭和26年	岐阜県立岐阜商業高等学校設立により、普通科生のみ募集。
昭和28年	商業課程生卒業により、普通課程のみの高等学校となる。

昭和31年	県立に移管され、校名を岐阜県立長良高等学校と改称され現在に至る。 岐阜市内所在の普通科高等学校四校（岐阜・加納・岐阜北・長良）は共通学区となる。
昭和32年	岐阜県公立学校小学区制を廃し大学区制となる。

※ 学区

- 普通科 岐阜市：金華・長良・鷺山・常磐・日野各小学校校下
山県郡：現山県市及び岩野田村各小学校校下
武儀郡（乾村・北及び西武芸村）各小学校校下
- 商業科 岐阜市：普通科校区及び京町・梅林・白山各小学校校下
山県郡及び武儀郡は普通科に同じ
稲葉郡：黒野村・方県村各小学校校下

2、柔道部の歴史

(1) タタミ40枚・手づくり道場から

戦後の柔道は、文部省通牒（昭和20年11月付）により、学校教育における課目及び課外での実施が中止となり（ただし、学校教育以外ではその限りではなかった。）昭和25年10月、体育教材として実施が認定されました。

当時は、戦後の復興に向けた機運が高まりながらも市の財政、市民の暮らしも潤沢とは言えない時代でありましたが、昭和27年7月に高橋龍・浅野勇両先生の柔道に対する情熱と河出修一校長のご理解により公費で40枚の畳を購入、本館2階にある講堂の一角を使用して、県下の高等学校に先駆けて誕生し、全国高校総体出場3年連続出場の礎となりました。

(2) 専用道場の整備

昭和34年12月30日、手作り道場に別れを告げ念願の専用道場が校地東北すみに整備されました。

以後、校舎の増改築等に伴い、昭和42年5月25日柔道場が解体され、昭和46年4月1日洗心館（2階柔道場）竣工までの間は、岐阜大学の道場を借用、先輩（大学生）の胸を借り、心技を磨き成長した己を実感されたと思います。48年に洗心館が2階建てとなり1階が柔道場となる。

その後、平成2年に体育館（格技館含む）が竣工し、現在に至っています。

(3) 活躍の状況

柔道部誕生の翌年から3年連続で全国大会出場の偉業を果たし、天下に名声を轟かせ、その後も全国大会・国体・東海大会出場等輝かしい実績を誇っています。その活躍の状況は次のとおりです。

百雄会ホームページより

年	活躍の内容
昭和28年	高校総体「優勝」 全国高校総体出場 東海高校総体「準優勝」 県高校新人戦「優勝」
昭和29年	高校総体予選「優勝」 全国高校総体出場 県高校総体「優勝」 県高校新人戦「優勝」
昭和30年	高校総体予選「優勝」 全国高校総体出場 県高校総体「優勝」 県高校新人戦「優勝」
昭和34年	県高校新人戦「優勝」 東海高校総体出場 東京国体出場：奥田・林
昭和44年	東海高校総体出場 長崎国体出場：古沢
昭和45年	岩手国体出場：長屋
昭和47年	鹿児島国体出場：熊田
昭和50年	東海高校総体出場 全国高校総体出場：益田
昭和59年	県高校総体女子「優勝」：林
昭和60年	第一回全日本女子団体柔道出場：林・中澤
平成3年	高校総体県予選「ベスト8」
平成4年	高校総体県予選「ベスト8」 東海高校総体「3位」
平成6年	県柔道形選手権大会「3位」
平成21年	県高校総体 女子個人「準優勝」栗本「ベスト8」：尾崎 男子個人「ベスト8」：高橋・松原 東海高校総体出場 女子個人：栗本 県体重別選手権大会 女子個人「3位」：栗本 男子個人「ベスト8」：松原 県ジュニア体重別大会 女子個人「3位」：栗本

(4) 技術指導をいただいた歴代の恩師

輝かしい伝統と実績を誇る部員を「精力善用・自他共栄」の柔道精神を発揮すべくご指導をいただき、政財界等各界で活躍する人材の育成にご尽力いただきました歴代の先生方に衷心より厚くお礼と感謝を申し上げます。

今後も、本会ともどもご指導賜りますようお願い申し上げます。

表

(敬称略)

歴代恩師	担当年度	担当期
高橋 龍	昭和24年～昭和29年	1～6
浅野 勇	昭和24年～昭和31年	1～8
杉山 千住	昭和32年～昭和40年	9～17
三浦 昇	昭和41年～昭和49年	18～26
渥美 茂四郎	昭和50年～昭和61年	27～38
伊藤 誠剛	昭和62年～平成5年	39～45
若山 徳明	平成4年～平成9年	44～49
小島 洋	平成10年～平成13年	50～53
熊田 利行	平成14年～平成19年	54～59
加藤 忠比古	平成16年～平成20年	56～60
岩井 誠	平成21年～現在	61～現在

○百雄会の60年

名称の由来

専用の柔道場がない持代（昭和27年7月まで）は、練習場代わりに、トレーニングに又大木を相手に打ち込みなどに汗を流し親しんだ母校北方に聳える市内最高峰の百々ヶ峰、稜線を東に辿ると雄総山があり、その両頭文字を、また「百人を超える雄が集う会」にするという熱き思いと「時代を超えて受け継がれる」ことを希い浅野勇先生が命名され昭和29年4月1日に誕生しました。

※昭和25年10月に柔道が体育教材として実施が認定される以前に岐阜道場・刑務所等で柔道に取り組んでいた先輩諸氏は母校の誕生と同時に岐阜高校から赴任された浅野勇先生を慕い厳しい環境下で精進されるなど、開拓者魂を発揮された私たちの先駆者です。

1、県下職域対抗柔道大会を主催

壮大な組織名で発足した本会は、昭和32年、職域等で柔道の活動が活発でありながら、その活躍ぶりを発揮できる大会はなく、本会は柔道界の活性化を図ることを目的として、県下の柔道関係団体・企業等に働きかけ多数のチームの賛同を得て「県下職域対抗柔道大会」を主催（共催：県柔道協会・新聞社等）しました。

百雄会チームの戦績は第1・2回大会共に優勝を果たし、主催者チームとしての面目を維持できたことを誇りに思っています。

開拓者魂を発揮し、樹立した大規模な大会を一つの高校のOB組織に委ねていては如何なものかと県柔道協会関係者から提案があり、当該協会と協議され、本会関係者は潔く合意し昭和35年から「県下各種団体対抗柔道大会」と名称を変更し県柔道協会が主催することになりました。

大会名称の変更後も本会チームは第18・19回大会にそれぞれ3位の成績を収めることができました。

2、会員名簿の作成

～創立当時は若い仲間が相集い盛んに活動をしていたが最近では組織としての活動は停滞し、仲間の消息すらつかめない状態で・・・

若い世代からの要請により、組織を軌道に乗せるべく名簿を作成、頒布した～

これは、昭和53年当時、代表幹事の5期：後雄敏雄先輩の「名簿発刊にあたっての」挨拶文の件（くだり）であります。

翌年に行われた総会には100名を超える会員（写真参照）が集い盛大に開催することができたことは、組織運営に危機感を持ち名簿づくりにご尽力をいただいた役員諸兄であり、その労苦に感謝申し上げます。



3、会則の制定

平成11年1月2日、勝峯会長・山田寛副会長を選出し、より活性化された組織運営を図るためにはどうあるべきか検討を重ねた結果、「組織運営に必要なシナリオを作っておかないとイザという時に間に合わない」という結論を得て、組織の活性化を図る目的で、平成12年11月12日に会則を制定し、以後の組織運営は順調に推移しています。

4、歴代会長

(敬称略)

代別	期別	氏名	担当年度
初代	1	石原 正	昭和29年～昭和52年
二代	4	各務 守正	昭和53年～平成 2年
三代	6	森 磐根	平成 3年～平成10年
四代	6	勝峰 孝文	平成11年～平成14年
五代	8	近藤 力	平成15年～平成19年
六代	19	羽賀 武夫	平成20年～現在

まとめ

冒頭で述べたとおり、60年の歴史と伝統の重みに四苦八苦しながら辿りついた時、「本会は～過去と未来をつなぐ架橋～となる会員諸兄の強い絆で結ばれ、その根底には開拓者魂・文武両道に加え精力善用・自他共栄の柔道精神にあると」改めて認識した次第であります。

加えて、「各種団体対抗柔道大会」に本会チームは第18・19回大会に出場以来残念ながら・・・この機会を契機に若い力を再結集しては？と、淡い希望を抱いたのもその一つであります。

結びに、当該寄稿に関して貴重な資料・情報を提供いただきました各位に感謝を申し上げます。ただし、そのご好意を反映できなかった事案が多々ありますことをご容赦願います。

また、小生が本会の活動に参画したのは平成11年からであり、この間の非礼をお詫びするとともに記述に不備等指的事项がありましたら事務局までご一方下さるようお願い申し上げます。

恩師、先輩、後輩に恵まれて

勝 峰 孝 文 (第6期生)

私は昭和27年4月入学、当初は陸上部に入るつもりでしたが後藤敏雄先輩(5期)に誘われたのが柔道の始まりでした。柔道部では素晴らしい先輩と仲間恵まれて、楽しい部活でした。当時は岐阜高校が柔道において全盛時代でした。また、この時代は武道が解禁されたばかりで、個人戦は無く、7人制の団体戦でした。岐阜県高等学校秋季柔道大会が岐阜公園内の武道館〈武徳殿〉で開催され、1年の時、選手に指名され、決勝戦は常勝岐阜高校でしたが、創部以来、初めて優勝ができました。それが長良高校の黄金時代の幕開けでもありました。その時の主将は後の中学校校長村橋鎔男先輩(4期)です。以来私は他校の友人にも多く恵まれ、因みに決勝戦で引き分けた深川純一郎君(元岐山高校教員)は一年先輩では有りましたが生涯の友となりました。2年生の年は静岡での東海大会で東海高校に惜敗しましたが準優勝をしております。その当時は愛知東海高校、福井敦賀高校、石川若狭高校の各県強豪と合同練習や定期試合をしておりました。これも浅野勇先生の各校先生方との幅広い交友関係と、先生の熱い、ご指導の賜物と今も感謝しております。また、河出、伊藤、歴代校長は初戦から最後まで観戦、応援いただき記念写真を撮る事が決まりでした。県内3年間無敗、3年連続インターハイ出場することもできました。

柔道を通じて後輩にも恵まれ、長良高同窓会長時代60年振りに同窓会会則を抜本的に改革しましたが、当時百雄会会長の、近藤力君(8期)には会則の原案は勿論、同窓会の議事運営まで御願ひし、長瀬武司君(10期)は監査役、安藤清貴君(24期)には、常任幹事、総会には土居浩之君(31期)と名前を挙げたらきりが無いほど、後輩諸君に助けて頂き、無事役目が果たせました。感謝です。長良高卒業時3段、大学時代に4段と、当時の全国大学東西対抗戦にも出場しましたが、やはり柔道の思い出は長良高時代ばかりです。卒業後は仕事、海外生活等もあり、柔道には縁がありませんでしたが当社の長野宏光君(7期)と1970年ドイツ、ミュヘンで極の形や、乱取りをして観衆に喝采をあげたことが今では思い出の一つです。

以前、8代長良高の校長でもありました吉田豊先生(元県教育長)との雑談の中、岐中、大学と同期で親友でもある浅野先生の話が出まして、岐阜高校全盛時代の監督は吉田先生でしたが、岐阜高は未だ正式の柔道部活動でなく浅野が羨ましかったとお聞きしたことがあります。長良高はいち早く高橋竜先生、浅野先生のご努力と初代河出校長のご理解で、正式柔道部として発足、今更ながら長良高柔道部の歴史の重さと誇りを感じました。

良き恩師、先輩、後輩に出会えた事は私の人生の宝であり、支えでもあります。これも柔道、そして百雄会のお蔭と感謝いたしております。

百雄会：現役員名簿

<顧問・相談役>

役職	氏名	期
顧問	勝峯 孝文	6 期
顧問	近藤 力	8 期
相談役	石原 正	1 期
相談役	村橋 鎔男	4 期
相談役	宇留野 照雄	5 期
相談役	大橋 匡	8 期
相談役	市村 孝盛	9 期
相談役	松久 至両	9 期
相談役	長瀬 武司	10 期
相談役	下川 正敏	10 期
相談役	丹羽 英之	11 期
相談役	杉山 隆俊	11 期
相談役	岩田 修二	22 期
相談役	奥村 政文	22 期
相談役	熊田 利行	24 期

<執行部>

会長	羽賀 武夫	19 期
副会長	永田 賢市	19 期
副会長	山口 温敬	19 期
副会長	堀 清一	20 期
副会長	安藤 清貴	24 期
副会長	大西 淳	25 期
幹事長	中島 隆	20 期
副幹事長	長屋 紀保	22 期
幹事長補佐	佐藤 巳代治	22 期
幹事長補佐	田中 祐二	26 期
幹事長補佐	末良 和久	27 期
幹事長補佐	鈴木 美奈子	37 期
幹事長補佐	国枝 茂	41 期

<事務局>

事務局長	土居 浩之	31 期
副事務局長	足立 義幸	31 期
副事務局長	上野 康治	31 期
事務局長補佐	村瀬 良太	49 期
会計	奥村 良久	33 期
監事	豊田 博正	35 期

百雄会名簿

期	氏名
1	石原 正
2	恩田 伸之
2	窪江 辰雄
3	坂野 謹治
3	早矢仕 猛彦
3	向川 信
4	白井 一太
4	尾崎 健三
4	各務 守正
4	田中 勘三
4	野沢 実
4	平野 恭弘
4	村橋 鎔男
4	米本 豊
5	井上 秋男
5	宇留野 照雄
5	高賀 喜則
5	後藤 敏雄
5	後藤 満
5	中島 時夫
5	服部 圭佑
5	宮本 禮輔
6	勝峰 孝文
6	木下 博美
6	田中 康敬
6	深和 公夫
6	村瀬 健一
6	森 磐根
6	山田 清
6	山田 寛
6	吉田 博亮
7	植村 利男
7	小塩 衛
7	片岡 久幸
7	木沢 勝一
7	後藤 修
7	後藤 正博
7	酒井 孝
7	中村 武夫
7	長野 宏光
7	野々村 雅章
7	端元 博保
7	引田 勝康
7	堀 勝司
7	正木 保
7	水戸 栄太郎
7	横山 幸高
8	石原 潤
8	井戸 克己
8	井戸 勇
8	大野 徹
8	岡田 利夫
8	落合 勝良

期	氏名
8	大橋 匡
8	北野 保彦
8	近藤 力
8	武山 政弘
8	林 幸定
8	山内 数夫
8	山崎 一郎
9	市村 孝盛
9	遠藤 博
9	笠原 賢三
9	後藤 友嘉
9	松久 至両
9	毛利 浩之
9	安田 欽吾
9	米本 光吉
9	安藤 正二
9	長屋 茂
10	江崎 淳
10	大野 義勝
10	熊田 幸雄
10	北野 努
10	澤田 邦宏
10	下川 正敏
10	大門 良昭
10	土田 道夫
10	辻 真弓
10	長瀬 武司
10	野々村 敏朗
10	信田 浩
10	長谷川 和光
10	松久 祐吉
10	松前 廣重
10	山田 重雄
10	原井 健次
11	奥田 新八
11	国島 昌輔
11	杉山 隆敏
11	丹羽 英之
11	穂苅 一兆
11	山崎 俊紀
11	吉田 正之
11	林 憲男
11	神山 昇
12	足立 嘉美
12	大野 孝男
12	加藤 勝治
12	金武 郁雄
12	田中 金男
12	松永 捷三
12	宮川 和人
12	村井 勝利
13	赤堀 充康
13	白井 暎司

期	氏名
13	大橋 範久
13	後藤 剛
13	清水 靖功
13	田中 良卓
13	戸崎 秀嗣
13	中村 賢二
13	長尾 好男
13	藤井 通男
14	市橋 孝文
14	遠藤 甚造
14	佐藤 光浄
14	清水 勇
14	藤垣 正勝
15	伊予田 強
15	岩井 斉和
15	大野 八則
15	岡田 八郎
15	篠田 邦夫
15	棚瀬 祐宏
15	早川 滋
15	平工 忠彦
15	渡辺 寿弘
15	脇田 元旦
16	大竹 進
16	清水 元朗
16	吉田 勉
17	後藤 俊之
17	後藤 政彦
17	玉川 時雄
17	外川 弘行
17	富田 豊
17	船橋 成元
17	田中 良和
18	長屋 薫
18	渡辺 文行
18	林 英夫
19	阿部 和義
19	伊藤 克美
19	河 海錫
19	須藤 仁司
19	久昌 秀人
19	浅野 吉一
19	坂 満男
19	松岡 充司郎
19	山口 温敬
19	永田 賢市
19	羽賀 武夫
20	太田 俊郎
20	高橋 喜久雄
20	中島 隆
20	堀 清一
21	加納 幹夫
21	西垣 明

期	氏名
21	棚瀬 和彦
21	平光 清
21	古沢 和興
21	梨谷 敏彦
21	柳 隆男
21	山田 美代治
22	岩田 修司
22	川崎 貢
22	佐藤 己代治
22	奥村 政文
22	長屋 紀保
23	小関 賢二
23	宗宮 寛
23	斎藤 孝之
23	森 修
24	安藤 清貴
24	遠藤 勝広
24	熊田 利行
24	玉木 孝夫
24	野澤 巖
24	安川 政典
24	山口 均
24	山口 尚宏
25	大西 淳
25	高見 武志
25	立木 清
25	永井 康敬
26	岡 修
26	柿内 直紀
26	鈴木 聡
26	田中 裕二
26	村井 清孝
27	青木 正光
27	石樽 逸二
27	石田 直樹
27	末良 和久
27	細江 和弘
27	増田 雅彦
27	河村 英之
27	吉田 康児
28	林 広幸
28	上道 浩司
28	鈴木 宏典
28	久松 晃
28	根村 俊朗
29	田中 豊司
29	塩谷 賢司
29	大西 周也
29	福井 貴敏
30	永井 善秋
30	中島 悟
30	林 建
31	足立 義幸

百雄会名簿

期	氏名
31	岩附 宏幸
31	上野 康治
31	篠田 清孝
31	土居 浩之
31	松尾 敏明
32	伊縫 雅典
32	斎藤 悦司
32	松本 康次
32	山下 虎視男
33	井手 徹
33	奥村 良久
33	後藤 克樹
34	井川 竜朗
34	小野寺 彰
34	大矢 敬一
34	高橋 正夫
34	永井 勝
34	村瀬 修功
35	市橋 晃
35	上田 篤史
35	大西 賢二
35	兼定 弘明
35	杉本 茂樹
35	杉山 二郎
35	武田 伸児
35	豊田 博正
35	武藤 努
36	岡田 孝三
36	西澤 伸司
36	橋枝 昌彦
36	林 由紀夫
36	日比野 博樹
37	酒井 宏昌
37	高橋 寛之
37	長屋 裕睦
37	野原 隆志
37	吉村 祐二
37	山口 油香
37	鈴木 美奈子
38	市岡 秀樹
38	辻 有記臣
38	長井 大輝
38	横山 正樹
38	中澤 礼子
39	伊藤 正樹
39	安藤 博昭
39	木下 滋昌
39	小島 大幸
39	後藤 隆晴
39	荘加 幸雄
39	藤井 達郎
39	船津 茂
39	安藤 路代

期	氏名
39	山本 雅世子
39	松本 徳子
39	武山 弘子
40	石井 亜也
40	小嶋 義雄
40	高島 直樹
40	田中 聡
40	野口 明洋
40	山田 淳二
41	大野 篤史
41	国枝 茂
41	多賀 良太
41	山中 伸彦
42	野倉 理志
42	平池 涉
42	村上 寛之
43	河村 敏之
43	篠田 晃典
43	平光 淳市
43	廣瀬 友嗣
43	藤原 知明
43	山岡 信仁
44	足利 昌英
44	後藤 厚哉
44	近藤 拓
44	清水 博司
44	高木 健太郎
44	寺町 健
44	土井 和彦
44	中村 裕
44	中村 哲晃
44	長谷川 文仁
44	渡辺 和樹
45	江村 英哲
45	小森 源長
45	玉井 清孝
45	野々村 和郎
46	河合 直樹
46	後藤 新悟
46	谷 香澄
46	野々垣 安記
46	野村 秀美
46	福永 由美
47	浅井 大貴
47	糸魚川 幸夫
47	大城 憲陽
47	桑原 崇普
47	酒井 芳弘
47	田中 章浩
47	戸田 泰史
47	野田 吉平
47	鏝塚 勝徳
48	加藤 宏典

期	氏名
48	土田 靖
48	長尾 宏紀
48	林 論
48	眞野 彰博
48	松永 直之
48	棚橋 美江
48	山本 聡子
49	篠田 雄介
49	村瀬 良太
49	浅野 優美江
49	高見 千鳥
50	斎藤 健太
50	志村 剛
50	銅島 龍
50	伊藤 裕香
50	堤 佳代子
50	中島 朋子
50	山内 絵理子
50	斎藤 恵美
51	井川 祐
51	小島 久典
51	平野 正樹
51	柳原 徳治
52	岩澤 洋介
52	坂井 宏樹
52	佐藤 靖之
52	三輪 健太
52	清水 香里
52	高橋 伸江
52	所 希実子
52	原 真智子
52	南 真智子
53	服部 優佳
53	大堀 真以
54	大平 孝吉
54	奥田 康介
54	小塩 高広
54	中島 佑基
55	大野 恭平
55	神原 一将
55	早川 真由美
55	渡辺 友美
55	熊田 佳乃
56	谷口 秀典
56	小森 美紗
57	曾祢 竜之介
57	藤木 佑
57	上沼 哲也
57	青木 由梨香
57	伊藤 彩乃
57	臼井 夕貴
58	堀田 洋平
58	金山 大輔

期	氏名
58	栗本 晃治
58	森 亮介
58	北原 麗子
59	臼井 志成
59	西田 和世
59	高橋 智子
59	高橋 麻里江
60	荒川 昌弘
60	小谷 亮太
60	篠田 陽介
60	高橋 祐貴
60	松原 拓位
60	尾崎 永璃子
60	栗本 依美
61	足立 遼介
61	加藤 弘樹
61	徳田 良磨
62	井尾 宇雄
62	金山 佳輔
62	相宮 啓人
62	増田 直也
62	守屋 暢彦
62	吉田 将
62	神山 奈美子
63	足立 大輝
63	大野 裕介
63	小田 周平
64	土居 茉友
64	宮内 香名
65	神谷 尚吾
65	西村 晃成
65	林 歩夢
65	松井 優治
65	河口 稚菜
65	本田 莉穂
66	糟谷 穂高
66	田中 健太郎
66	渡邊 寛大
67	常川 彰太
67	長谷川 雄也
67	湯口 祐基
67	菊地 亜裕美
67	和田 綾音
67	和田 有希乃
68	川柳 斗真
68	富岡 周平
68	日下部 怜

百雄会会則

第1条(名称)

岐阜県立長良高等学校（以下「母校」という。）柔道部に在籍した卒業生（以下「会員」という。）で構成する組織の名称を百雄会（以下「本会」という。）と称する。

第2条(目的)

本会は母校柔道部の顧問（以下「恩師」という）と会員との親睦を図り併せて母校柔道部の発展に寄与することを目的とする。

第3条(事務所)

本会の事務所は事務局長宅におく。

第4条(顧問及び相談役)

本会は顧問及び相談役をおくことができる。

①顧問は歴代会長の職にあった者

②相談役は、役員会で推薦する。

2. 顧問・相談役は、会長の諮問に応じ又は会議に出席して意見を述べることができる。

第5条(役員の構成)

役員の構成は次のとおりとする。

(1)会長 1名

(2)副会長 若干名

(3)幹事長 1名

(4)副幹事長 1名

(5)幹事長補佐 若干名

(6)事務局長 1名

(7)副事務局長 1名

(8)幹事 各学年1名

(9)会計 2名

(10)監事 2名

第6条(役員の選出)

役員は役員会において選出し総会で承認を得るものとする。

第7条(役員の任期)

役員の任期は3年とする。但し再選は妨げない。

第8条(役員の職務)

役員の職務は次のとおりとする

- (1) 会長は本会を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する。
- (3) 幹事長は会長、副会長を補佐し、会務を主宰する。
- (4) 副幹事長は幹事長を補佐する。
- (5) 幹事長補佐は各年代を代表し、本会の運営に当たる。
- (6) 事務局長は事務全般を担当する。
- (7) 副事務局長は事務局長を補佐する。
- (8) 幹事は各学年を代表し本会の運営に当たる。
- (9) 会計は本会の経理を担当する。
- (10) 監事は本会の会計について監査する。

第9条(会議)

本会の会議は総会及び役員会とし、会長が招集する。

2. 定時総会は3年ごとに開催し、次の各号に定める事項を協議する。

- (1) 会則の改廃
- (2) 事業計画及び収支予算
- (3) 事業結果報告及び収支決算
- (4) 役員の承認

3. 役員会は第5条に規定する役員(同8号に規定する幹事を除く)で構成し、次の各号に定める事項を協議する。

- (1) 毎年度の議行計画等及び総会付議事項の審議
- (2) 役員候補者の選出
- (3) その他

4. 各会議の協議事項は、出席者の過半数の同意を以て議決し、賛否同数の場合は議長が決するものとする。

5. 会議の議長は、会長が指名する。

第10条(会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする

第11条(運営費)

本会の運営費は会費と協賛金等をもってあてる

第12条(会費)

本会の会費は、年間2,000円とする。

2. 懇親会に要する会費は別途徴収する。

第13条(委任)

本会則に定めるものの他、本会運営に必要な事項は役員会に委任するものとする。

附則

本会則は、平成12年11月12日より施行する。

本会則は、平成25年4月1日に改定し施行する。

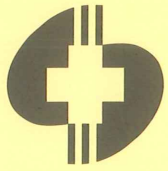
参考(百雄会の由来)

岐阜市の最高峰で、母校の北方にそびえる「百々ヶ峰(どどがみね)」と東方にある「雄総山(おぶさやま)」の両頭文字をとって「百雄会」と故浅野勇先生が名付けられた。

百人を超える雄(ますらお)が集う会にすると云う熱い思いと百雄会が時代を超えて受け継がれていく事を願い、昭和29年4月1日に船出をしました。

百雄会慶弔に関する基準

1. 百雄会の慶弔に関する事項は、この基準に定めるところによる。
2. 対象者は、本会則に定める顧問等・役員、及び会長が必要と認めた者とする。
3. 慶弔の区分は次のとおりとする。
 - (1) 祝電 対象者が叙勲を又は、褒章を受章した時。
講道館八段以上に昇段した時。
 - (2) 弔電 対象者が逝去した時
4. 申請等
前3の対応は、関係者からの申請もしくは本会がその情報を認知した場合とする。
5. この基準に定めるものの他必要な事項は会長が別に定める。
6. この基準は、平成12年11月12日より施行する。
この基準は、平成25年4月1日に改定し施行する。



医療法人 社団 誠広会

会長 平野恭弘 (4期生)

平野総合病院

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病内科、腎臓内科、外科、消化器外科、整形外科
リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〒501-1192 岐阜市黒野176番地5
TEL (058) 239-2325 (代)

岐阜中央病院

内科、神経内科、消化器内科、消化器外科
循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、小児歯科
矯正歯科、糖尿病・内分泌科、肝臓内科、漢方内科
内視鏡内科、人工透析内科、肛門外科、内視鏡外科

〒501-1198 岐阜市川部3丁目25番地
TEL (058) 239-8111 (代)

祝60周年

内装工事・カーテン・じゅうたん・クロス

株式会社 正木装飾

代表取締役 正木 保 (第7期生)

岐阜市萱場東町4丁目20番地

TEL.058-231-1930

FAX.058-231-1699

祝 60 周年



成和鍼灸接骨院

岐阜市則武中2丁目30番地13号

TEL.058-294-4112

土居 浩之 (31期生)

祝 百雄会 60周年記念

役員の皆さんご苦勞様です

50周年記念事業を担当した役員一同 (順不同)

勝峰孝文 近藤力 大橋匡 市村隆盛 長瀬武司 下川正敏 丹羽英之 戸崎秀嗣

早川滋 羽賀武夫 中嶋隆 末吉和久 土居浩之 上野康治 奥村良久 豊田博正

端元法律事務所

弁護士 端元 博保 (第7期生)

弁護士 伊藤 公郎

弁護士 池田 智洋

弁護士 市橋 優一

事務所

岐阜市京町2丁目2番地(端元ビル2F)

電話 058-263-1433・265-9176

街・商環境・商業空間の新たな創造

商環境計画. インテリアデザイン. 監理

一般社団法人 日本商環境デザイン協会 会員

株式会社  デザイン事務所

代表取締役 遠藤 博 (9期卒業)

〒500-8227 岐阜市北一色6丁目1番69号 TEL(058)246-7600 FAX(058)248-1136

長瀬行政相談事務所

長瀬 武司 (第10期生)

〒502-0004 岐阜市三田洞448-21

TEL.058-237-3405

百雄会 祝60周年



長良高校トーク(19)会

羽 賀 武 夫
永 田 賢 市
山 口 温 敬

百雄会 祝60周年



長良高校柔道部24期一同

祝60周年

Create Your Future

Microsoft
GOLD CERTIFIED
Partner



IT経営実践認定企業

事務用品/各種消耗品などのオフィスサプライ/オフィス家具/業務用家具/OAフロアなどのアメニティをご提供します。

ネットワーク/LAN/WAN/グループウェア/セキュリティ対策/コミュニケーション基盤の設計・構築・保守など、オフィスのネットワークに関する提案をトータルでおこないます。

オフィスアメニティ
サプライ

ネットワーク
ソリューション

オフィス環境の
総合ソリューションサービス

システム
ソリューション

ハードウェア
ソリューション

お客様との対話から、世の中でもっとも強力でコストパフォーマンスに優れたビジネスパッケージソフトを統合・提案いたします。

パソコン/ネットワークプリンタ/複合機/コピー/FAXなど各種ハードウェアをマルチベンダーとしてご提供します。保守や技術的なサポートもおこないます。

中部事務機株式会社

第10代長良高等学校同窓会長

代表取締役社長 辻 慶一 (第24期)

本社	〒500-8309	岐阜市都通1丁目15番地	TEL (058)251-7191	FAX (058)255-0011
大垣支店	〒504-0854	大垣市築捨5丁目69番地1	TEL (0584)89-0711	FAX (0584)87-0145
東濃支店	〒509-0222	可児市羽崎495番地1	TEL (0574)62-8490	FAX (0574)62-8491

小島接骨院

整復師 小島 寿康

大幸 (第39期生)

羽島市竹鼻町錦町57番地

TEL (058) 392-7801



はり・きゅう

接骨院

クウエイル

診療内容：接骨／交通事故／訪問診療／はり・きゅう診療／リハビリ

診療時間	月～水	木	金	土	日	祝
10:00-13:00	予約制	●	●	●	休	休
15:30-21:00	●	●	●	■	休	休

■土曜午後は 15:30～18:00 の診療です。※予約は自費治療となります。(鍼・灸・足底挿板療法)
※時間外の急患も随時対応いたします

訪問診療時間	月～土	日・祝
9:00-16:00	●	休

訪問診療は
予約のみ

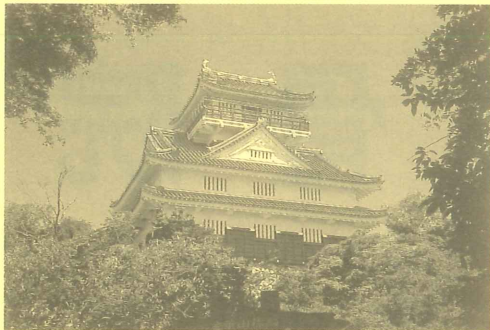
※予約状況によりご指定頂いた時間を変更する場合がありますので御了承の程お願いいたします。

TEL058-276-8223

<http://www.bs-quail.com>

院長 中村 裕 (第44期)

岐阜県岐阜市中鷺5丁目113番地1



I LOVE JUDO
&
I LOVE GIFU



和紙問屋
株式会社 深和紙店

代表取締役 深和公夫 (第6期生)
(旧姓 深尾)

美濃市千畝町2713-11
TEL 0575-33-0235(代表) FAX 0575-35-0476

創業大正8年

米本接骨院 はりきゅう院

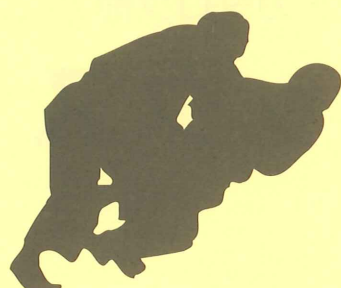
米本光吉 (第9期)

高富街道・岐阜環状線の交差点北へ (長良上天神バス停徒歩2分)
岐阜市長良福光122-3 TEL.058-231-6084



百雄会 祝60周年

柔道部20期一同



百雄会 祝60周年

柔道部22期一同



百雄会 祝60周年

柔道部31期一同



街を明るく 生活を快適に

岐阜電気工事株式会社

代表取締役 藤井 達郎 (第39期生)

本社 岐阜市高野町1丁目5-4

岐南出張所 羽島郡岐南町上印食1丁目300

TEL.058-245-6725(代) FAX.058-247-6574

E-mail info@gifudenki.co.jp URL <http://www.gifudenki.co.jp>



国産全メーカー・輸入車
新車・中古車販売、点検・整備、板金、保険

KUNIEDA 国枝自動車工業株式会社

専務取締役
国枝 茂
(第41期)

〒500-8153
岐阜市石長町3丁目19番地
TEL:058-245-8138
FAX:058-247-2632

ホームページアドレス

<http://www.kunieda.co.jp/>

印刷／名刺・はがき・封筒・伝票・チラシ・カタログ他

有限会社 プリンテックス

代表取締役 村瀬 克彦 (29期)

岐阜市中西郷4-156

TEL.058-234-7321 FAX.058-234-7322

